

読むミルク



ジーアンドエス社長 萩原 扶未子

先日、?歳の誕生日を迎えた。思い起こすと、2003年4月3日の本コラムに「誕生日を迎えて」という文章を寄稿している。あれから、はや6年。「え!?!」と感じるほどあつという間だった。

後期課程に在籍して博士を指している。
2002年頃から、女性起業家の創出支援や、それに伴うジェンダー(男女の特性)の活用について研究し、社会に還元したいと考えるようになった。しかし、どこから、どのように手をつけていいかわからなかった。ともかく、

を試し、見つけ出した施策を生かす「場」が必要だった。また、ネットワークが広がらないと成果も生まれず、波及効果もないということで、06年に「女性起業家交流会 in HOKURIKU」を設立した。これで「経験」と「基礎知識」の「場」が加わり、三つの輪ができたことになる。

25歳の時、右も左もわからず起業(世間を知らなかったから起業できた)し、思い起こしても涙が出そうになる苦しくつらい体験や、胃が痛くなるような恥をかいた。周囲にも迷惑をかけていたと思う。起業したことを後悔したこともあったが、たくさん人の助けをいただき、継続できた。だからこそ、

誕生日を迎えて

経験談だけで動くのは危険なので、しっかりと「経営」や「起業」に関する基礎知識をつけなければいけない、とだけは感じていた。

その後は女性起業家の創出支援にかかわる事業や活動が目白押しとなり、週末もない生活となってしまった。しかし、北陸にとっても素敵で夢のある女性が、こんなに大勢も存在していたのかと日々、驚きと喜びの出会いの連続である。

次に「誕生日を迎えて」を書くチャンスがある時はどのような日々を送っているのだろうか? 6年前と同じ締めくくりだが、「楽しみである」。

女性起業家の創出支援やジェンダー活用コンサルティングに机上論だけでなく、経験をベースにした実践的な取り組みができるのだと思える(いまだに発見と学習の毎日です)。